

# GINZA SIX

—銀座の新しいランドマークをめざして—

GINZA SIXは、主に旗艦店からなる商業施設をはじめ、都内最大級のフロアプレートを持つオフィス、文化施設としての観世能楽堂、そして地域冷暖房施設や大規模駐車場からなる都市型大規模複合施設であり、銀座への更なる来街者の呼び込みを促し、新しいランドマークとなることをめざした。

GINZA SIX is a large-scale urban complex featuring commercial facilities, offices boasting one of the largest floor plates in Tokyo; the Kanze School Noh Theater; a district heating and cooling system; and a large parking garage. One of the objectives of the project was to further bolster the number of visitors to the Ginza area, and take on the mantle of a new landmark.

第17回環境・設備デザイン賞 III. 都市・ランドスケープ部門  
 谷口吉生・KAJIMA DESIGN・プレイスメディア・LPA・森ビル



## 銀座にこれまでなかった憩いのスペースの創出

地上56mの屋上に、4,000㎡の広さに、2,000㎡の緑地をもつ都市型庭園「GINZA SIX GARDEN」を設け、銀座に希少な憩いのスペースを創出した。

銀座は明治期に日本(東洋)と西洋が最初に交錯した街である。その表れとして、季節感の演出を重んじる江戸の庭園文化を引継ぐサクラとモミジの木立を南北に配し、その間に西洋の広場文化を引継ぐ芝生と水盤の広場を並置した。さらに、外周に東京の街を360度見渡せる「回遊のみち」を設けた。

中央の水盤はわずか5mmの厚みに抑えた水幕が緩やかに流れ、涼感ある音と水面の反射が広場に動きをもたらし、水との触れ合いを促すことを意図した。

また、水流を止めることで、芝生広場と合わせて約700㎡の屋外イベントスペースとなり、商業店舗などと連携した様々なイベントに活用され、来街者の憩いの場であるとともに賑わいの発信も行われている。



銀座の街に浮かぶ豊かな緑の木立



東京の街を360度眺めることができる「回遊のみち」



緑陰の憩いのスペース「モミジの木立」



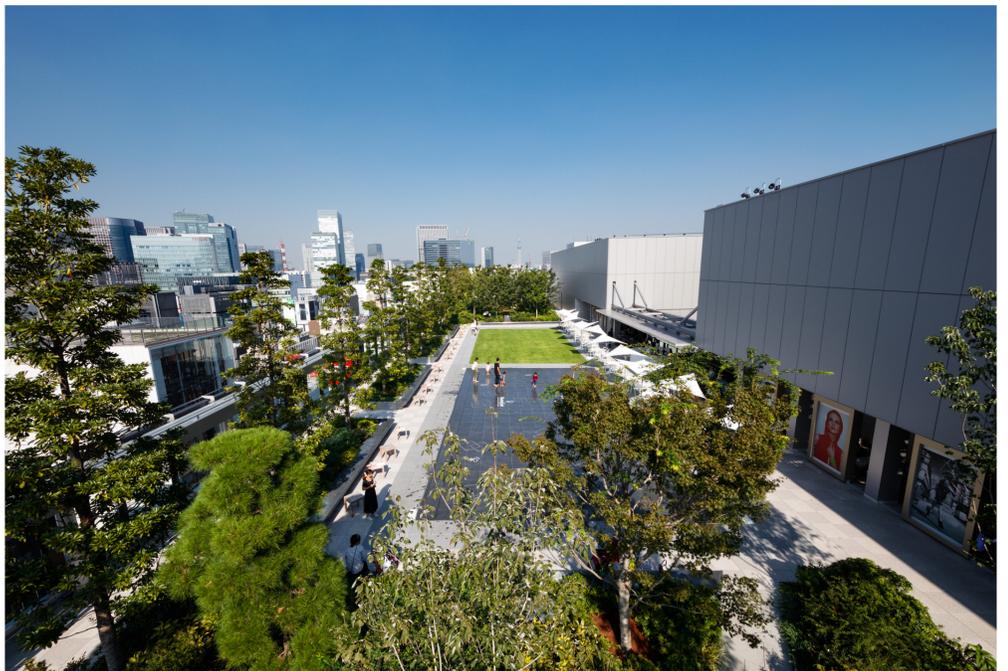
緩やかに流れる水膜が人々を誘い、広場の風景を創り出す



心身のリラクゼーションを誘う芝生広場 —ヨガスタジオ—



水流を止め、屋外イベントスペースとなるフレキシビリティを備えた中央広場 —新館—



芝生と水盤の2つの広場を中心に、四季の移ろいを感じる木立を南北に配した「GINZA SIX GARDEN」

## 銀座の新しい人の流れを創出

巨大な建築のスケール感を活かしながらも、銀座特有の路地空間による人の流れが途絶えないように、建物を貫通する「南北敷地内通路」、中央通りと三原通りをつなぐ「銀座バサージュ」、三原通りのバス乗降所上部に「三原テラス」、さらに地下鉄銀座駅に繋がる「あづま通り地下通路」を設け、歩行者ネットワークを拡充した。



「三原テラス」と階の「観光バス乗降所」、三原通りの交差点にはランドマークツリーを配置



水と緑のストリートパーク「三原テラス」



「南北敷地内通路」は歩準分離して安全性を高め、賑わいも強化



銀座の地下道ネットワークを拡充する「あづま通り地下通路」



GINZA SIXの地下6階に、銀座5-6丁目地区熱供給センターの第2プラントを設置。GINZA SIXに熱供給を行う他、既存第1プラントと熱融通を行い、地下鉄駅舎、周辺建物に熱供給している。

対自己熱源比で約194t CO<sub>2</sub>/年削減。  
 熱源構成は電気主体の蓄熱式ヒートポンプシステムを採用。(冷水専用のターボ冷凍機に熱回収型ターボ冷凍機と加熱塔型水冷ヒートポンプチャラーの組合せ。蓄熱槽容量:約6,000m<sup>3</sup>)

## 環境・設備デザイン評価表

評価項目	評価内容	評価結果		
		評価項目に対する設計者の意図 (従来のデザインと比較し、優れている部分に○、卓越している部分に◎を記す)	自己評価 0 1 2	
(従来のデザインと比較し、優れている部分に○、卓越している部分に◎を記す)				
A. 感性軸 (造形) Form	01 商業感	地上56mの屋上、江戸の庭園文化を引継ぐ芝生と水盤を中心とした4,000㎡の都市型庭園を創出し、大規模複合施設の外観に統一感と個性を兼ね備え、近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
A. 感性軸 (造形) Form	02 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	03 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	04 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	05 完成度	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	06 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	07 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	08 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	09 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	10 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
	11 親和性	近隣のビル群と調和する。また、その「人」のデザインを追求し、近隣のビル群と調和する。	◎	
B. 機能軸 (技術) Technology	12 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
B. 機能軸 (技術) Technology	13 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	14 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	15 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	16 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	17 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	18 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	19 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	20 蓄熱性	蓄熱槽容量:約6,000m <sup>3</sup> 。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	C. 社会軸 (環境) Environment	21 環境性能	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎
	C. 社会軸 (環境) Environment	22 環境性能	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎
23 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
24 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
25 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
26 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
27 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
28 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
29 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
30 環境性能		対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost		31 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost	32 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	33 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	34 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	35 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	36 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	37 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	38 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	39 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	40 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	
	41 耐久性	対自己熱源比で約194t CO <sub>2</sub> /年削減。蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、エネルギー効率を向上させた。	◎	

